

令和2年度 総務省「関係人口創出・拡大事業」

**「再エネで町の魅力を発信！
一戸町応援団形成プロジェクト」事業
～一戸町と横浜市の連携を強化～**

**成果報告書
岩手県一戸町**

令和4年1月21日

1.地域の概要

- 一戸町は岩手県内陸北部に位置し、面積300.03km²、人口11,899人(令和3年1月現在)、高齢化率は41.8%(令和元年)となっている。
- 町内の御所野遺跡が「北海道・北東北の縄文遺跡群」の一つとして2021年7月に世界文化遺産登録された。
- 高原の気候を活かした葉物野菜を中心とした野菜栽培が盛んな地域である。
- 東北新幹線の二戸駅から車で15分ほど、八戸自動車道の一戸ICがあり、岩手駅から青森県を繋ぐいわて銀河鉄道線の駅は町内に4駅あり交通の便は比較的良い。
- 町内に地域の森林や河川を活用した再生可能エネルギーの発電所とその売電の仕組みをもっている。
- 平成31年2月6日に「一戸町と横浜市における再生可能エネルギーの活用を通じた連携協定」を締結し、再エネの連携を縁に地域間交流、物品の交流等の取り組みを積極的に実施することになった。令和元年12月2月には横浜市と同じ理念のもと「2050年二酸化炭素排出量実質ゼロ宣言」をしている。



2.事業の背景・目標

(1) 関係人口によって解決・改善を図りたい地域課題

10年前に一戸町の地域おこしの一環として横浜市中区元町にアンテナショップを設け、首都圏での認知度向上と地元生産者の収入増を目指したが、地域間交流は限定的に留まっていた。横浜市と連携協定を締結したことを強みに、再生可能エネルギーの供給だけでなく、それをきっかけに、横浜市を中心とした首都圏との人や物の交流を活発することで、一戸町の地域経済の活性化を図りたい。

(2) 概ね5年後の地域の理想の姿

横浜市を中心に首都圏で一戸町で発電された再エネ電力への切り替えを行った企業や住民が、電気のふるさとである一戸町に興味を持ち、「一戸町応援団」となる。再エネだけでなく、一戸町の歴史資源や美しい景観、新鮮で安全な農産物にも関心が広がり、首都圏での恒常的な販売となる。また一戸町の住民も横浜市を身近に感じ、お互いが頻繁に往来できる良好な関係が築かれる。

- ①横浜市内に一戸町の再エネを使用する企業30社以上、一般家庭2500名以上
- ②再エネツアー3件以上、30名以上の参加
- ③「一戸町応援団」2500名以上

(3) これまでに取り組んできた関係人口関連施策の実施状況・成果

- 横浜市中区元町にアンテナショップを設置。(2010年1月) その後、元町商店街の一員として地域活動を実施。
- 復興支援・一戸産直夕市 元町レ・アール (同実行委員会参画) (2015年～2019年、毎年7月に開催)
- 元町クラフトマンシップ・ストリート (元町CS) で元町CSフードフェアに参加 (2011年から参加、毎年2万人来場者)
- 横浜市と再生可能エネルギーの活用を通じた連携協定を締結 (2019年2月6日)

(4) 令和2年度事業の目標

目標	横浜市の再エネ電力に興味を持っている企業や住民との電力転換契約を結ぶと共に、一戸町の魅力を発見・体験する観光プランや継続的な関係人口を構築するスタイルを構築する。	
成果指標	①再エネ電力マッチング会参加企業数 ②再エネ電力契約数 ③再エネ見学ツアー数・参加者数 ④一戸町応援団数	
目標値 (数値目標)	①再エネマッチング会参加企業20社以上 ②再エネ見学ツアー開催1件以上 ③再エネ電力契約数10件以上 ④990人以上の「一戸町応援団」	現状値 (基準値)
		令和元年：0件、0人

3.事業実施体制図（関係図）

再エネ、脱炭素、SDGs
関連の交流事業実施

事業主体・運営（一戸町側）

まちづくり課
とりまとめ、事務会計管理、地域課題解決

商工観光課
地域資源活用、観光促進の調整

教育委員会
世界遺産等、文化・教育関係とりまとめ

ターゲット（関係人口）

横浜市民

横浜市内の大学生

横浜市内の商店街

首都圏の
個人や
事業者

横浜市内の企業

再エネや脱炭素、SDGsに興味がある人々

・かんないテラス（関内地域でのイベント）
・さくらホームレストラン（関内の地域食堂）
・横浜市内での再エネやまちづくりに関わる勉強会

横浜市内でのPR活動、
イベント運営

中間支援組織等

特定非営利活動法人 仕事人倶楽部
一戸町と横浜市を繋ぐコーディネーター
各事業をサポート

横浜市地球温暖化対策推進協議会
横浜市内での勉強会、イベントの実施
一戸町の再エネ電力普及の促進活動

関内まちづくり振興会
一戸町のイベント参加をサポート



一戸町まちづくり課 来田



横浜市民 新村



仕事人倶楽部 漆畑

4.取組の概要

(1) 本事業で取り組んだ取組の概要

①横浜市にて一戸町のPRイベント プロジェクト

概要：一戸町の再エネ電力及び地域資源のPRのため、横浜市民を対象に、PRイベントを2回開催した。

場所：横浜市関内 神奈川テレビ周辺

内容：関内まちづくり振興会の協力のもと、「関内テラス」というイベント内にブースを設置。

電力切り替えのマッチング会、一戸町産野菜のPRを実施

②一戸町の魅力発見ツアープロジェクト

概要：横浜市を中心に「一戸町応援団」を作るため、専門家と「一戸町応援団」予備軍を対象に、一戸町の視察ツアーを2回開催した。（希望者は多数だったが、コロナ感染対策のため人数制限をした）

場所：一戸町内の施設等（御所野遺跡、藤島のフジ、奥中山高原、いわてこどもの森、夢ファーム、大志田ダム、産直、御所野縄文電力、高森高原風力発電所等）

内容：体験観光、一戸町との勉強会を実施

③一戸&横浜 花の交流オンラインイベントプロジェクト

概要：子ども達の移動を伴う交流の代わりにオンラインを活用し、一戸町と横浜市の子ども達を対象に、交流イベントを1回開催した。

場所：一戸町小鳥谷公民館と横浜市関内の商店街

内容：横浜市の花、「バラ」を一戸町に、一戸町の「フジ」を横浜市に、子ども達がオンラインで話しながら同時に植樹した。今後、花の成長とともに交流がつづくように、と願いをこめて実施。

④一戸&横浜 オンライン勉強会 一戸町を知る三日間プロジェクト（通常の勉強会も別途開催）

概要：一戸町の循環可能な林業や観光資源を横浜市の方々に知ってもらうため、横浜市民を対象に、オンライン勉強会を3日間続けて開催した。

場所：一戸町役場と横浜市の参加者宅を繋いで実施

内容：一戸町の観光の魅力／関内・一戸町森林保全の連携／循環可能な林業と木質バイオマス発電について 講演会

⑤その他 一戸&横浜 オンラインりんご狩り 一戸&横浜 星空・環境講演会 も実施

概要：一戸町と横浜市をオンラインで繋いだイベントを2種類、3回開催した。

5.取組の内容 令和2年度の活動

①横浜市にて一戸町のPRイベント プロジェクト

目的と概要：一戸町PRのため、横浜市民を対象に、再エネマッチング会、一戸町PRのトークセッションを2回開催した。

開催日時：＜第1回＞9月25日（かんないテラス内にて開催）

＜第2回＞11月3日（ハイカラフェスタ かんないテラス内にて開催）

開催場所：横浜市関内

プログラム：エコワークショップ～再エネマッチング会 & 一戸町PR～トークセッション

参加者：約300人（一般参加者）

開催状況：マッチング会に参加された方に一戸野菜をプレゼントした。電力＋食べ物で一戸町への関心が高まった。

成果等：マッチング参加者一人ずつと丁寧に一戸町の話ができた。専門家、講師によるトークセッションで映像も見せながら紹介できた。

一般来場者とイベントスタッフを合わせ、約300名が「一戸町応援団」となった。



②一戸町の魅力発見ツアー プロジェクト

目的と概要：「一戸町応援団」を拡大するため、専門家と一戸町に関心をもつ横浜市の中間支援者、協力団体の中心者を対象に、人数を制限して、一戸町の視察ツアーを開催した。

開催日時：＜第1回＞10月3日、＜第2回＞10月8日～9日

開催場所：一戸町内の施設等（御所野遺跡、藤島のフジ、奥中山高原、いわてこどもの森、夢ファーム、大志田ダム、御所野縄文電力、高森高原風力発電所等）

プログラム：町内視察、地域資源活用検討会

参加者：8人（横浜市からの参加者、専門家）+12人（一戸町のスタッフ等）

開催状況：一戸町内の施設等（御所野遺跡、藤島のフジ、奥中山高原、いわてこどもの森、夢ファーム、大志田ダム、御所野縄文電力、高森高原風力発電所等）を見学、地域資源活用の検討会も開催した。

成果等：一戸町への理解が深まり、今後の交流についての提案もされた。今後の更なる協力体制が構築された。



③一戸&横浜 花の交流オンラインイベント プロジェクト

目的と概要：一戸町と横浜市の子も達の、移動を伴う交流の代わりに、オンラインを活用した交流イベントを開催した。
一戸町の天然記念物「藤島のフジ」周辺で採取された「フジ」を横浜市へ、横浜市の市の花である「バラ」を一戸町へ、それぞれ苗を送り、同時に植樹した。

開催日時：11月18日

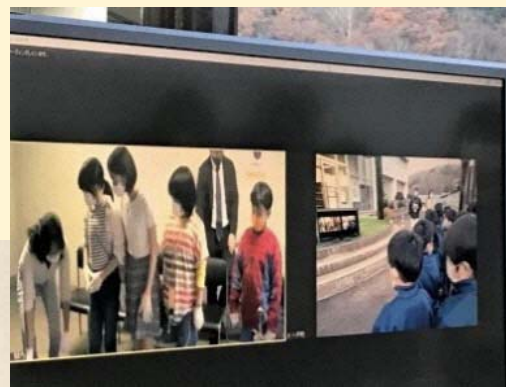
開催場所：一戸町役場、一戸町小鳥谷地区公民館、横浜市中区関内

プログラム：町長、副町長の植樹～挨拶～子ども達の植樹～感想発表

参加者：50人（一戸町、横浜市の参加者、児童と保護者、役場関係者）

開催状況：一戸町側は、藤島のフジを管理している小鳥谷公民館を拠点にする小鳥谷小学校の児童が参加。横浜市側は関内地域の立野小学校、大島小学校の児童が参加し、オンラインを通して交流した。

成果等：一戸町の小学生と横浜市の小学生の交流がスタートした。オンラインでも交流を進められることがわかった。



5.取組の内容 令和2年度の活動

④一戸&横浜 オンライン勉強会 一戸町を知る三日間プロジェクト

目的と概要：一戸町の循環可能な林業や観光資源を横浜市の方々に知ってもらうため、横浜市民を対象に、勉強会を3日間続けて開催した。

開催日時：<第1回>1月27日 14:00~16:00
<第2回>1月28日 14:00~15:30
<第3回>1月29日 14:00~16:00

開催場所：一戸町役場、横浜市の各会場

プログラム：挨拶~講演会~質疑応答

参加者：約100人（SNS発信,チラシにより募集）

開催状況：ZOOMのIDを関係者に伝え、一戸町役場と横浜市、首都圏の各会場をオンラインで結び、勉強会を開催した。

成果等：勉強会参加者アンケートによると、参加者の全員が「一戸町応援団」に興味があると回答し、期待以上の成果が出た。



令和2年度「関係人口創出・拡大事業」モデル事業

一戸&横浜 オンライン 勉強会

2021年
1月
27日~
29日

無料セミナー

一戸町は2019年2月6日に、共通の目標である「脱炭素社会の実現」を目指し、「地域循環共生圏」の理念のもと、東北11市町村と共に再生可能エネルギーの供給を軸に、横浜市と連携協定を締結しました。そして、この連携を推進強化するため、様々な交流が始まっています。

一戸町と横浜市の連携の可能性を、専門家と交えながら共に考える三日間、3つのテーマの3回の勉強会を企画しました。

一戸町を知る三日間

第1回	1月27日(水) 14:00~16:00 一戸町の観光の魅力 - 世界遺産登録周辺の縄文遺跡 - 講師：成瀬純一(ラフワリス株式会社・代表) 他
第2回	1月28日(木) 14:00~15:30 国内・一戸町森林保会の連携 - 横浜から考える連携 - 講師：氏川直次(横浜国立大学・教授) 他
第3回	1月29日(金) 14:00~16:00 循環可能な林業と木質バイオマス発電について - 一戸町樹産田産業の取組 - 講師：柴田君也(株式会社柴田産業・専務) 他

※参加方法は裏面をご覧ください。
お問い合わせ：一戸町総務部まちづくり課 (0195-33-2111)



⑤一戸&横浜 オンラインりんご狩り 一戸&横浜 星空・環境講演会

目的と概要：新型コロナウイルスの感染拡大の影響が続くことが想定される中、オンラインを活用して交流が進められる体制を作るため実施した。

開催日時：〈オンラインりんご狩りイベント〉11月19日 14:30～15:00

〈第1回オンライン星空・環境講演会〉12月11日 18:00～19:50

〈第2回オンライン星空・環境講演会〉12月18日 18:00～19:50

開催場所：〈りんご狩り〉一戸町内リンゴ農園、横浜市役所 〈星空〉一戸町立鳥海小学校校庭、横浜市内各所

プログラム：挨拶～体験～質疑応答

参加者：〈りんご狩り〉15名 〈星空〉40名

開催状況：ZOOMのIDを関係者に伝え、一戸町と横浜市の各会場をオンラインで結び、イベントを開催した。

成果等：参加者からは、この体験を通じて、一戸町という場所に行ってみたいなと思ったという感想が多数寄せられた。



(1) 取組ごとの成果発現プロセス

取組名	取組①：PRイベント	取組②：視察ツアー	取組③：オンラインイベント
取組の結果 (アウトプット)	実施回数、2回 参加人数、合計300名以上	実施回数、2回 参加人数、合計10名の参加（首都圏から）	実施回数、7回 参加人数、イベントは延べ130名、勉強会は延べ108名参加。
取組の成果 (アウトカム)	関係の創出・深化に関する成果	横浜市で一戸町の名前を知る人が増えた。一戸町の野菜の美味しさを評価する人が増えた。	一戸町の再生可能エネルギーへの関心、食材への関心が高まった。
	地域にもたらされた成果	一戸町の食材を横浜市の飲食店で使おうという動きが出た。	参加者の木質バイオマス発電の一戸町で発電される電力へ切り替えが決まった。
取組③の成果	一戸町の循環可能な林業に関心が高まり、横浜市から植林に行きたいという希望者が多数出た。		
取組③の成果	一戸町の植林イベントに横浜市の方々を招くことになった。		
令和2年度事業の目標達成状況	【今年度事業による目標達成指標（指標の実績値）】 ①再エネマッチング会参加企業20社以上（100%）②再エネ見学ツアー開催2件開催（100%） ③再エネ電力契約数5件（50%）④1000人以上の「一戸町応援団」創出（100%）		

6. 事業成果 その後 令和3年度にステップアップ

(1) 取組ごとの成果発現プロセス

取組名		取組①：PRイベント	取組②：視察ツアー	取組③：オンラインイベント
取組の結果 (アウトプット)		実施回数、2回 参加人数、合計300名以上	実施回数、2回 参加人数、合計10名の参加（首都圏から）	実施回数、7回 参加人数、イベントは延べ130名、勉強会は延べ108名参加。
取組の成果 (アウトカム)	関係の創出・深化に関する成果	街路灯を一戸町の木質バイオマスの電気に切り替える町内会、商店街が現れた。 横浜市民の木質バイオマスの電気切り替えが進んだ。 ・横浜市吉田町 ・横浜市元町CS通り	旅行会社によるツアー造成がされた。 ツアー参加者募集の広報活動が開始 1泊2日の旅 1万年を生きた縄文人に学ぶ「SDGs体験！」に旅（実施は来年度に延期）	横浜市内の小学校で一戸町の「藤」を記念植樹した。 一戸町小鳥谷小学校と横浜市羽沢小学校とのオンライン交流授業が開催された。 2021年8月 子ども達の一戸ツアーが予定されている。 2022年2月5日～6日
	地域にもたらされた成果	一戸町応援団が増えた。	一戸町へ出かけようという気運が高まった。	一戸町と横浜市の子どもの交流が始まった。

6. 事業成果 令和3年度の展開

(1) 取組ごとの成果発現プロセス

取組①：PRイベント

取組②：視察ツアー

吉田町で街路灯の切り替え

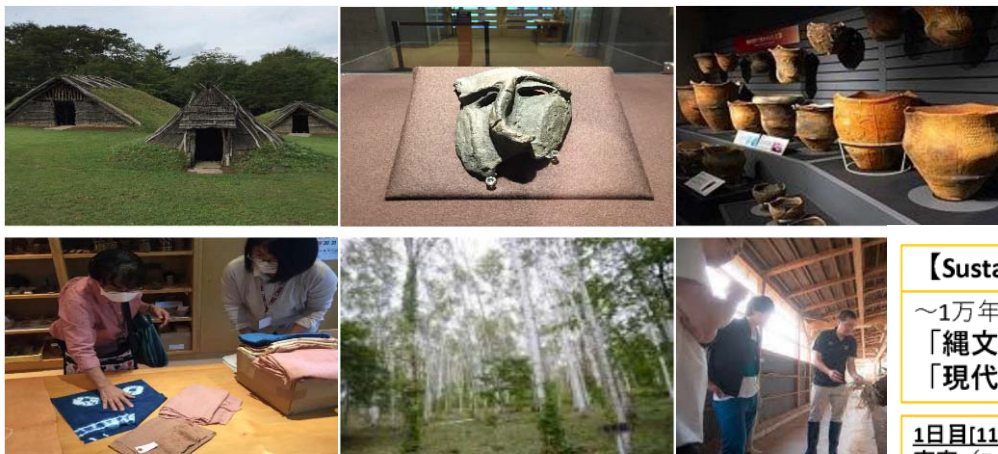


6. 事業成果 令和3年度の展開

(1) 取組ごとの成果発現プロセス

取組②：視察ツアー

1万年を生きた縄文人に学ぶ「SDGs体験！」の旅



旅行主催：クラブツーリズム株式会社

お問合せ先はHP「クラブツーリズム 歴史」または03-5323-6940まで

【Sustaina Station DaiDaiスペシャル企画】～消費して終わる旅から循環を楽しむ旅へ！～

～1万年以上続いたとされる「平和」と「自然共生」の【縄文時代】に学ぶ旅～
「縄文人に学ぶSDGs」一日学校in世界遺産・御所野遺跡と
「現代のSDGs」北岩手のエコ活動「くじ☆ラボ」&「短角牛農家訪問体験」2日間

1日目[11月12日(金)]

東京(7:15～7:40発) 東北新幹線はやぶさ号(大宮途中乗車可) 盛岡(10:15発) 世界遺産・御所野遺跡「縄文人に学ぶSDGs」一日学校 平庭高原・しらかばの湯平庭山荘(泊) ※夕食は、「まめぶ」等郷土料理を加えた和食膳と「短角牛サーロインステーキ」をご賞味ください。ワンドリンク付き(「山葡萄ワイン」または「山葡萄ジュース」から選択可)。夕食後、希望者に談話室で「岩手の民話」をお話します

2日目[11月13日(土)]

平庭高原(※希望者は「ガイド同行」で、日本一の白樺美林早朝散策。朝食に白樺から採取した天然樹液をお楽しみ頂きます) 白樺美林「くじ☆ラボ」体験 久慈「短角牛農家訪問」体験 盛岡(17:30予定) 東北新幹線はやぶさ号(大宮途中下車可) 東京(20:00～20:40着)

旅行代金(おひとり)

コース番号：C3851-981(東京駅発着) 89,800円(3～4名1室) ※2名1室5,000円増 1名1室8,000円増

コース番号：N3351-981(盛岡駅発着) 59,800円(3～4名1室) ※2名1室5,000円増 1名1室8,000円増

添乗員：同行 ツアーナビゲーター：同行 最少催行人員：8名 受付：1名 相部屋：不可 バス会社：岩手県北バス同等

食事条件 1日目：朝食無・昼食弁当・夕食有 2日目：朝食有・昼食有・夕食無 バス席：1人2席利用

「縄文人に学ぶSDGs」一日学校in世界遺産・御所野遺跡プログラム

昼食：縄文弁当の昼食 1時限目：基調講演「縄文時代とは」 2時限目：学芸員による「博物館ガイディングツアー」5,000年前の縄文ムラをご案内 3時限目：縄文染め物(天然彩色)体験「ストール制作」

「現代のSDGs」体験「くじ☆ラボ」&「短角牛農家訪問」体験プログラム

- ・「平庭高原環境整備(白樺美林を守る活動/白樺植樹・草刈り・ゴミ拾い)
- ・「放牧体験」または「牛舎体験」/「短角牛」について、「飼育」について等解説
- ・「いわてのべこ」の昔話体験/古老が語る「いわてのべこ」の昔話
- ・かわいい「いわてのべこ」と記念撮影

6. 事業成果 令和3年度の展開

(1) 取組ごとの成果発現プロセス

取組③：オンラインイベント

「小鳥谷（こずや）小の友達に、どんなことができるかな」。岩手県にある一戸町立小鳥谷小とのオンライン交流学習の後、担任の先生が問い掛ける。「手紙を書いて、お礼の気持ちを届けたいね」。羽沢小の5年生は、「環境」を考える活動で小鳥谷小との交流を続けている。羽沢小が学校全体で取り組んでいる「持続可能な開発目標（SDGs）」の活動の一つでもある。

思い伝える交流学習

岩手の小学校とオンラインで、主体的に

<https://www.kanaloco.jp/special/serial/schoolroom/article-626733.html>

神奈川新聞 | 2021年8月9日(月)

7.今後の関係人口創出・拡大に向けた展望

(1) 本事業の成果の今後の活用・発展方向について

再生可能エネルギーの木材の循環のためにも町有林等を活用した横浜市民参加型の植林イベントを検討していきたい。

始まった交流の芽を大事に育てていきたい。特に、子ども達の交流に注力していきたい。

(2) 地域における関係人口への期待について

植林にはぜひ参加してもらい、一戸町の森林を自分たちの森林（横浜市民の森）と考えてもらえるようにしたい。

今後もオンライン＋物流を活用する交流を進めて、横浜市での一戸町の食材販売等も増やしていきたい。

(3) 今後の関係人口創出・拡大に向けた政策等について

横浜市での御所野縄文電力の普及拡大にさらに取り組む。

SDGs (再生可能エネルギー & 縄文文化)の町としてPRを強化する。横浜市にターゲットを絞った施策を考えていきたい。

(4) 地域における持続的な受入の体制・仕組みについて

持続的な関係を創るためには、一戸町と横浜市それぞれの現地にコーディネーターの役割を担う組織が必要だと感じた。

再生可能エネルギーはこれからも成長を続けるビジネスと考えられるので、関係人口創出・拡大にその資金を循環させるような資金の好循環を検討したい。